

2013 年に向けてのメッセージ

～被災地復興支援の取材で出会った皆さんから読者への伝言

【サンガ岩手】
代表 吉田 律子さん



サンガ岩手では、岩手県大槌町で「心の伴奏者」として、自前の施設である「サンガ岩手おうち工房」にて、手作り品の制作・供給による被災者の仕事づくりや、技術向上のための研修などを行なっています。仮設住宅では、狭いコミュニティの中、気丈にしていなければなりません。この工房に来ることで、自分の心を開放してほしい、そして、人と出会い、技術を学び、前に進むステップにしてほしいと思っています。

若い人たちは、なかなか進まない復興の現状に、内陸で暮らすために大槌を出て行っています。街づくりは、複合的です。全国のさまざまな知識を持っている方々に、大槌に力を貸していただきたいです。被災地は、まだまだ支援を必要としています。

サンガ岩手 HP → <http://sangaiwate.org/>（「サンガ岩手」で検索）

【NPO 法人 再生の里 ヤルキタウン】
理事長 熊谷耕太郎さん



ヤルキタウンは、12月15日に1年半の準備期間を経て、岩手県陸前高田市米崎町にオープンしました。壊滅状態の陸前高田には、何店舗かの仮設店舗はありますが、買い物だけをして帰る、といった場所になっており、そこでゆっくりできるような環境になっていません。うつ病や孤独死などの二次的被害者が増えている中、これ以上犠牲者を増やさないため住環境の整備が喫緊の課題です。

そこで、「憩える！集える！元気を発信する！コミュニティ広場」をキャッチフレーズに、被災者や地域の方が平日ないし、一日、ゆっくりと過ごせるスペースをつくりました。お茶を飲む場所、直売所、ビデオレンタル屋、ワークショップを行なうスペース、地域の方が野菜を育てる「園芸広場」などがあります。「子どもパーク（砂場）」の設置や花が咲き乱れる「花画廊」の建設も計画しています。「ヤルキタウン」がにぎわうよう、地区外、県外の方など、少しでも多くの人に訪れていただけたらと思います。

ヤルキタウン blog → <http://ameblo.jp/yarukitown/>（「ヤルキタウン」で検索）

【株式会社 街づくりまんぼう】
代表取締役社長 西條 允敏さん



街づくりまんぼうは、宮城県石巻市の街づくりを2001年から行なっている第三セクターの会社です。震災後も、継続して街づくりに関わってきました。震災直後から、住民が街づくりのために立ち上がっています。石巻の現在の大きな課題は、住む人、そして、石巻を訪れる人の両方を増やすことです。そこで、石巻の住民はもちろんのこと、他の地域の方にも積極的に街づくりに関わっていただき、さまざまな知恵を出し合えたらと思っています。

今、被災地は街の様子が刻一刻と変化しています。がれきが撤去され、家の基礎もならされた場所を見ると、ただの空き地にししか見えません。でも、そこには確かに家があったのです。津波の被害が分からなくなる前に、どうか一度被災地に来てください。そして、一緒に考えるきっかけをつくっていただけたらと思います。

街づくりまんぼう運営の「石ノ森萬画館」HP → <http://www.man-bow.com/manga/>（「萬画館」で検索）

【JA 福島中央会】農業対策部
農業振興課長 和田 光浩さん



JA グループ福島では、福島県の生産者が安心して生産でき、消費者が安心して福島県産の農畜産物を購入できるよう、「農業県福島」の復活と放射性物質に関する安全確保対策に取り組んでいます。東京電力福島第一原発事故の影響で、本県の農畜産物の価格は大きく低迷しています。放射性物質の被害を抑えるため、生産者は真冬の寒風吹き荒れる中、高圧洗浄器で樹木を1本1本洗浄したり、田畑の除染・放射性物質吸収抑制対策を重ねてきました。また、農産物の放射性物質検査についても、米の全量全袋検査や野菜・果物の全戸全品目検査に取り組んでおります。

インターネットで本県の放射性物質の検査結果が日々更新されております（下記 URL）。不明なことには積極的にお答えする対応もしております。福島県の農業の情報を、常にアンテナを高くしてキャッチしていただきたいのです。そして、大丈夫だと思ったら、「支援」というかたちを超えて、震災前のように「当たり前」に取り引きしてほしいと思います。生産者の喜びは、愛情を込めて育てた農作物を消費者の皆さまに「おいしい」と言っていただくことです。「農業県福島」の復活を目指して、福島は歩んでまいります。

「ふくしまの恵み安全対策協議会」放射性物質検査情報 → http://www.ja-fc.or.jp/ja_chuokai/（「ふくしまの恵み」で検索）